

恵那電力株式会社の概要

～ゼロカーボンシティの実現を目指して～

2021年 4月8日

恵那市・日本ガイシ株式会社・中部電力ミライズ株式会社

1. エネルギーの地産地消によるゼロカーボンシティの実現。



PVを最大限活用し、CO2フリー電力の安定的な確保を推進、エネルギーの地産地消を目指します。
2022年4月より恵那市役所をはじめ、小中学校などの公共施設、明知ガイシ大久手工場への電力供給を開始、ゼロカーボンシティの実現に向け、電力設備・供給先ともに順次拡大します。

2. 地域経済を活性化し、次世代へ環境教育を。



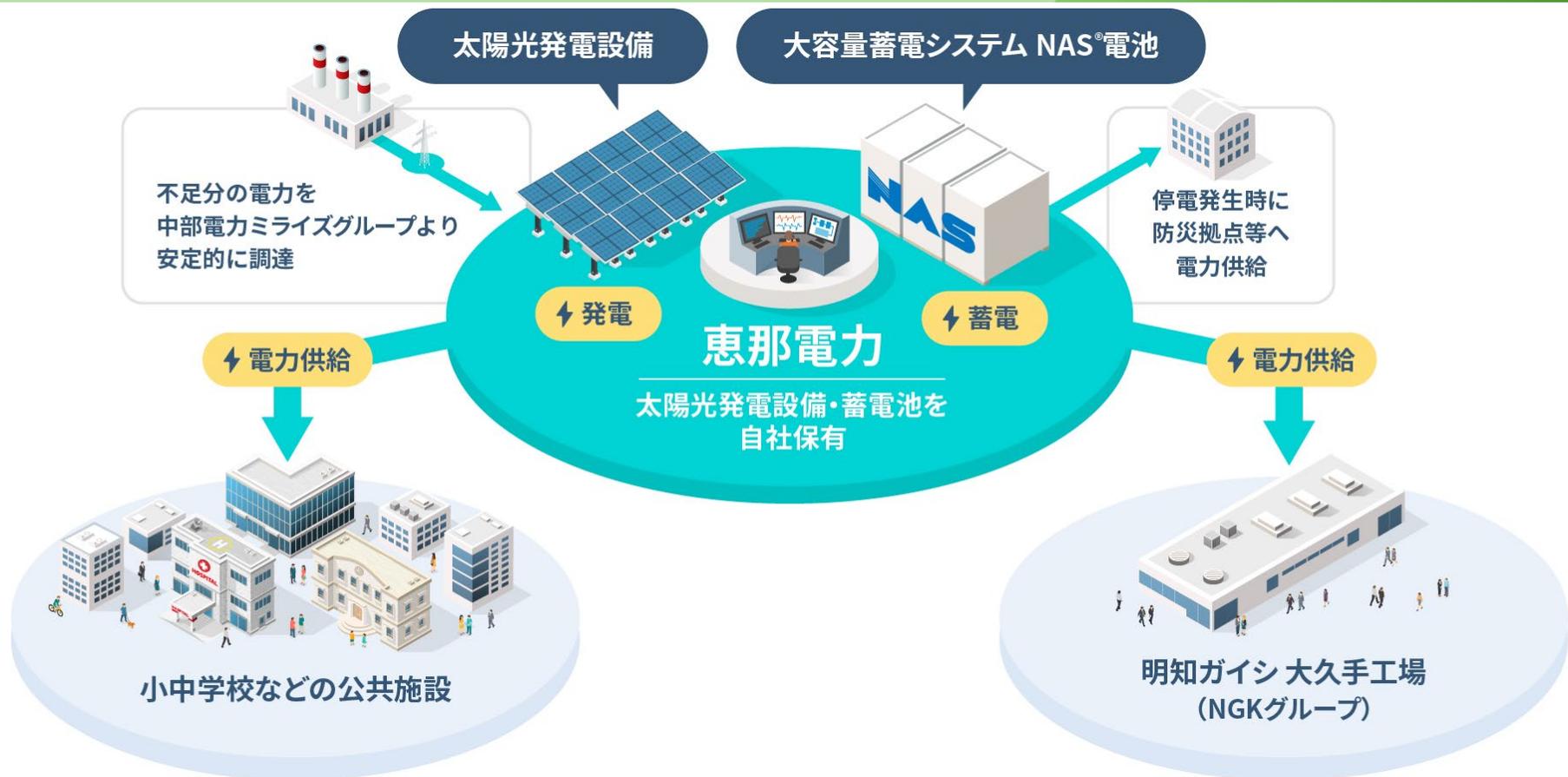
恵那で生まれた電力を恵那で消費することで、地元の資金を恵那市内に還流させ、地域経済の活性化を図ります。事業収益から、さらなる再エネの導入拡大と、恵那の将来を担う次世代への環境教育を支援します。

3. 災害時の電力を確保し、対応力を強化。



自社で保有するPVやNAS電池を自然災害などの有事に、防災電源として活用する仕組みの構築を目指し、地域の災害対応力の強化に貢献します。

恵那電力の事業スキーム



PVとNAS電池を自社保有し、FIT制度に依存しない、安定的で自立した地域電力網の確立を目指します。平常時は、PVによる再生可能エネルギーの安定的な利用とNAS電池を活用したピークカットによる電力コストの抑制、自然災害などによる非常時には、それらの設備を災害用電源として提供することで、近年ますます激甚化する自然災害への対応力強化を目指します。

以下の官民連携の取組を“**恵那モデル**”とし確立に努めます。

FIT制度を利用せず、発電した電気は環境価値も含め、恵那市が目指す「人・地域・自然が輝く交流都市」の実現に向け活用。市のブランド力向上を目指します。

PVとNAS電池の能力を最大化する仕組みを構築しながら、中部電力ミライズグループより、安定的に電源調達することで、経営安定性の高い地域新電力を目指します。

自然災害などによる停電発生時には、公共施設の屋根に設置したPVやNAS電池を地域の防災電源として提供。近年激甚化する自然災害への対応力強化を目指します。

明知ガイシ大久手工場への供給を皮切りに、エネルギーの地産地消による地方創生という理念に賛同する市内事業者への供給拡大に取り組み、ゼロカーボンシティの実現に向け、電力事業で得た収益を、新たな再エネ電源に再投資する仕組みを構築します。

(参考) 恵那電力のホームページ



<https://www.enaden.jp>

今後、プロジェクト進捗を随時アップデート致します。